

## 会議等結果報告書

会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	231
		決裁期日	平成21年11月27日
名称	上富良野町協働のまちづくり推進準備委員会（第11回）		
日時	平成21年11月24日（火） 午後6時30分～午後8時50分		
場所	保健福祉総合センター2階研修室		
出席者	委員9人 町民生活課長、事務局1人 合計11名		

内容

[進行：町民生活課長]

あいさつ

丸田会長： お忙しい中、出席にお礼申し上げます。今回の会議はワークショップ3回目となり、次回12月の会議で仕上げていきたい。1月からの会議は皆さんと相談しながら進めていきたいのでよろしく願います。

町民生活課長： 報告として、先日、自治基本条例の説明会を東中中学校において1時限（50分間）で実施した。年内には上富良野中学校も実施していく予定。

議題

### 1 ワークショップによる討議

テーマ「行政主導（行政依存）から住民自治を充実する協働型のまちづくりを進めるためには」  
町民生活課長から、次の点について説明を行う。

- ・ 今回のテーマの考え方について、資料を基に説明。
- ・ 協働のまちづくりを進める必要性として、3つの要素がある。
  - 地方分権による自己決定自己責任
  - 住民ニーズの高度化、多様化
  - 財政の縮小に伴う事業の選択
- ・ テーマに関する課題と解決策までを討議していただく。
- ・ 各グループで20時まで討議していただき、その後全体で意見交換していく。

各グループに分かれてテーマに関する議論を行い、午後8時00分頃から全体で発表を行った。  
Aグループ、Bグループの意見は別紙。

全体での意見交換

町民生活課長： 関心がない、無関心を解決する方法について意見をいただきたい。上富良野を好きという思いは少なからずあるはずで、その力を結集できないのはなぜか。体験が少ないからか。

- ・行政の情報がしっかり伝わっていないのではないか。
- ・協働がなぜ今必要なのかが、町民に伝わっていないのではないか。
- ・町民のアンテナを研ぎ澄ますことが必要。そのことできずきをはぐくみ、ネットワークへつなげていく。
- ・意識のある人から、まずは行動していく。
- ・取り組める町内会、住民会から行動していく。
- ・町民の体験、集う機会をつくっていく。盆踊り、運動会など。

町民生活課長： 教育も大切なことで、例として、上富良野中学校の野球部が活動の一環としてごみ拾いを行った経験から、大人になったらごみは捨てないとの意識につながっているとの話しを聞いている。

- ・推進員の設置を住民が主体となるようにしていく。スポーツ推進員、福祉推進員はなかったものだが、苦勞して仕組みをつくってきた。
- ・モデル地区の設置を考えていく。25住民会あるので5つくらいのモデル地区を作ってみてはどうか。
- ・無関心は財政の問題、高齢化の問題が伝わっていない。生活に支障がないため、生活上での体験が必要。情報を伝える（行政） - 現状を把握する（町内会） - 話し合い（知恵を出し合う）
- ・意識改革が必要。仮に除雪がなくなれば、隣近所で助け合わなくてはならない。
- ・まずは行動してみることが必要。
- ・ボランティアしている人を大切にしていくこと、敬意を表することが必要では。町全体で活動している人に敬意を表する意識を持つ雰囲気を作ること。人を育てるまちづくりが大切。
- ・人のまねをしてみる。除雪、ごみ拾いなど。
- ・行政、議会の意識改革だけではなく、町全体の意識を改革していくことが大切。

町民生活課長： リーダーを育てる上で、社会教育も大切と思う。キーワードは元気な高齢者と思う。これからは10人に4人が高齢者になる時代。たくさんのリーダーが存在している。時間があり、生きがいとして地域への貢活動が考えられる。また、老人クラブはたくさん（住民会単位で）できることもよいと思う。

## 2 その他

事務局： 次回は、12月17日木曜日、午後6時30分から、保健福祉総合センターかみんで開催する。

閉 会

[ 会議終了：20時50分 ]

グループ：A 座長：北越(発表)、委員：丸田、本田(欠)、三島、瀬川、佐川、菊池(欠)、中野(欠)、記録：吉岡

テーマ	課題や問題点(会議：11月24日)	解決策(会議：11月24日)
行政主導 (行政依存)から住民自治を充実する「協働型」のまちづくりを進めるためには	<p>1 関心がない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町民に対し、行政からの情報が少ない(情報)</li> <li>・町のことを知らない、知ろうとしない(町のことを知らない)</li> <li>・行政に関心を持つ住民を増やす努力をして行かなければならない(関心)</li> <li>・協働する必要性があまりない(協働の必要性がない)</li> </ul> <p>2 行政依存</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何でも行政に頼む(行政に頼む)</li> <li>・頼めばやってもらえる意識になっている(頼めば行政がやってくれる)</li> <li>・町民の社会、町民として自立(自立)</li> <li>家族・地域・職場などの環境と共生した社会づくり</li> </ul> <p>3 担い手、人手不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化(少子高齢化)</li> <li>・高齢化や病人が増え続けると参加人数が少なくなる(参加人数)</li> <li>・ボランティアを町全員で進める。行政職員も仕事以外で参加する、住民の1人として。(ボランティアを進めましょう、行政職員も)</li> </ul> <p>4 地域の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民自治のための推進員強化、議会と行政と3本柱で話し合う機会をつくる(推進員)</li> <li>・役場職員を住民会地区担当に置く(地区推進員)</li> <li>・町民参加のまちづくり推進していく(町民参加の推進)</li> </ul> <p>5 教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民意識を変えないと(住民意識)</li> <li>・小さい時から教えていない</li> <li>・三つ子の魂百まで</li> </ul> <p>6 対等(平等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の住民の意思がとおりすぎないために、考え方の平等や公正さを重視しなければならない(声の大きさ)</li> <li>・協働型の住民自治を進めるには、行政と住民の立場が同じ立場にならなければならない(対等)</li> <li>・異質な価値観と異質な人たちが集まる中で、共通のテーマを見つれたり共通資源を開発(いろんな人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民参画(行事)の展開</li> <li>・町民、議会、行政の意識改革</li> <li>・子ども、元気な高齢者の参加</li> <li>・楽しいと感じられるように(考えること)</li> <li>・各住民会に推進員を</li> <li>・小さい時から協働を考える</li> <li>・住民会(町内会)、行政、各種団体は連携を</li> </ul>

協働のまちづくり推進準備委員会 ワークショップ整理票

グループ：B 座長：石田(発表)、委員：松浦、持安、渡辺(欠)、久我、岩田(欠)、大内(欠)、記録：無

テーマ	課題や問題点(会議：11月24日)	解決策(会議：11月24日)
<p>行政主導 (行政依存)から住民自治を充実する「協働型」のまちづくりを進めるためには</p>	<p>1 真の情報共有                      ・行政の情報は、伝えたいことが伝わっていない - 情報の共有になっていない - 住民に聞こえ良いオブラートに包んだ情報。例として、「高齢化」の言葉は使っても、それが何を意味するのかが伝えられていない。</p> <p>2 参加がない                      ・町内会の活動に参加が少ない                      ・日ごろからいろんな楽しいことがある</p> <p>3 組織内の連携不足                      ・それぞれの団体のみ話し合いをしている。連携がない。</p> <p>4 まちづくりへの無関心                      ・一定の暮らしができていて                      ・行政への依存とそれに応えてきた行政                      ・大変だということが実感としてない                      ・小さな取り組みの話し合いができていない - 話し合いのキッカケがない                      ・自治会役員の持ち回り - 同じ行事の繰り返し - 大きな変化は求められない                      ・町内会内で意見を言いづらい、新たな活動を言える雰囲気にあるか</p> <p>5 リーダーがない                      ・持ち回りの役員ではリーダーは育たない</p>	<p>・協働のモデル地区を作る - 次につなげていく、活動を連鎖させていく                      誰が主導する？、行政が主導？</p> <p>・役場職員をうまく使う - まちづくりに関わる行政の情報を理解している</p> <p>・参加しやすいキッカケづくり(知恵・アイデア)</p> <p>・小さな取り組みの話し合いの場をつくる</p> <p>・小さな成功体験を積み重ねる</p>